

# 令和5年度和歌山県文化奨励賞

きのした ゆういち  
木ノ下 裕一

住 所 京都府京都市  
出身地 和歌山県和歌山市  
生 年 昭和60年

## ◎ 業績及び経歴

昭和60年和歌山市に生まれる。小学3年生の時に初めて上方落語を鑑賞し衝撃を受ける。落語の面白さに目覚め市内の地域寄席や落語会に足繫く通う中で、古典芸能全般に興味を抱き、小学生で落語、中学生で歌舞伎、高校生で文学、大学生で能・狂言を見るという計画を立て実行する。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科に進学し、現代的な舞台芸術の表現や最先端の前衛的な表現を学ぶ中で、歌舞伎の手法や能の表現との共通点を見出し、前衛と古典を繋ぐ思考を深め、古典を使った現代劇の制作を意図するようになる。

平成18年同大学在学中に、自身が補綴・監修を務め古典演目の現代的上演を行う木ノ下歌舞伎を旗揚げする。その主眼は、海外のオペラ等の新演出に比べて必ずしも一般的ではなかった日本の古典演目を誰でも演出できる環境を作る、歌舞伎を現代の歌舞伎として蘇らせる潮流を起こす、という壮大なものである。そのため、氏は演目のテキスト化に際し、作者の生きた初演の時代から現代までの、過去の時代の台本、今は現存しない歌舞伎の型、学術論文、評論、浮世絵、写真等、あらゆる資料を通して当該演目の歴史を徹底的に調べ上げた上で、演出家と熟議を重ね演出を完成させていくという、ドラマトゥルクとしての緻密かつ膨大な努力を重ねることを惜しまない。

その成果は、平成27年に「三人吉三」再演が読売演劇大賞上半期作品賞にノミネートされ、平成28年に「勸進帳」が文化庁芸術祭新人賞を受賞するなど、高い評価を受けており、令和6年にはまつもと市民芸術館の芸術監督団団長への就任も決定している。

日本の古典演目を尊重し、古典と現代の距離を認識した上で、現代に蘇らせる潮流を作るという氏の取組は常に進化を続けており、今後さらなる活躍が期待される。

## ■ 現 在

- ・補綴家
- ・ドラマトゥルク

## ◆ 主な表彰歴等

- |       |           |
|-------|-----------|
| 平成29年 | 文化庁芸術祭新人賞 |
| 平成30年 | 大桑文化奨励賞   |
| 令和2年  | 京都府文化奨励賞  |
| 令和3年  | 京都市芸術新人賞  |
| 令和4年  | 和歌山市文化奨励賞 |